

市長 このたびは、「鹿児島市ふるさと大使」をお受けいただきありがとうございます(ございまして)(昨年11月20日に委嘱)。市制施行130周年という大きな節目の年に、デビュー20周年を迎えるAIさんにふるさと大使をお願いできたのは、とても良いタイミングでした。

AIさん 引き受けさせていただいて、とにかくうれいんです。「鹿児島」と聞いただけで「よし、きた！」と思うし、海外の友人にも「ぜひ行ってみて。」とよく言っています。これを機会に、大好きな鹿児島をさらに堂々とアピールできるのがとってもうれしい。

市長 いよいよ今年は、待望の東京2020オリンピック・パラリンピックが開催され、その熱気と感動の余韻冷めやらぬ中、本市ではかごしま国体・かごしま大会の開催を迎えます。鹿児島のまちがスポーツで熱く盛り上がるこの一年、AIさんにも鹿児島をさらに発信していただきたいと思っています。

AIさん 鹿児島での国体の開催は、48年ぶりなんですよね。ふるさと大使、頑張ります！

市長 頼もしいですね！

「鹿児島は安心する場所」

市長 AIさんは、若い世代の人たちを中心に幅広い層に大人気ですが、地元鹿児島では鹿児島マラソンの大会オフィシャルソング(第1〜3回)などを通して、多くの市民の皆さんが親しみを持っています。愛嬌(あいぎょう)たっぷりの笑顔とその変わらない鹿児島弁のイントネーションがいいですね。

AIさん なかなか抜け切らなくて(笑)。仲良くなるきっかけにもなるのはいいですね。タクシートの運転手さんに「鹿児島ですか？」と尋ねると、「ですすー」と返事が来たりして(笑)。急に話が弾んだりします。何かほっとしますね。

市長 高校時代を海外で過ごされ、また、歌手になられてからは国内外でご活躍中ですが、AIさ

んの心に鹿児島が温かく息づいているのを感じますね。

AIさん やっぱり安心するんです。子どもが生まれるまでは年に3回ほど帰省していました。

帰ったら、通っていた中学校を見に行きます。変わっていたり変わらないものがあったり、胸にジワツときます。自宅から桜島がよく見えて、学校に行く前も帰ってから、毎日、桜島が身近にあったことも懐かしいです。

市長 桜島はやはり大きな存在なんですね。

AIさん はい、美しいあの姿が、日々の暮らしの中で当たり前にあるのはすごいことだと思います。一方で灰とかが大変だと思えますが、桜島小みかんや桜島大根など、おいしいものもいっぱい。桜島フェリーの中のうどんは、なぜかどうしても食べたくなる(笑)。

他にも大好きな場所がいっぱいあります。中でも、やっぱり天文館、いいですね。小さい頃から特に好きでした。

「思い出す、人の温もり」

市長 鹿児島市は、今、「あなたとわくわくマグマシティ」を合言葉にしてまちづくりを進めています。マグマは桜島をイメージすると思いますが、おおらかで温かく、時に情熱的な人々の心を、桜島のマグマのエネルギーとして表しているんです。

AIさん そうなんですね。鹿児島の人たちの温かさ、私も実感しています。小さい頃住んでいたマンションはみんなが仲良く、大人も子どもも一緒によく色んな行事をしていました。学校から帰って自宅に誰もいないと、管理人さんが「うちにいなさいよ。」って。あの温もりは、思い出すと涙が出てきます。ぜひ、いつまでも鹿児島の良さとして残ってほしいと思います。

市長 地域の中でお互いにつながる絆づくりが、まちのエネルギーの源になると思っています。これからもしっかりと取り組んでいきたいですね。

歌手・鹿児島市ふるさと大使

AIさん

1981年、米ロサンゼルス生まれの鹿児島育ち。本格的な歌唱力やダンス・センス、バイリンガルでラップもこなせるストリート感覚などで、広く支持を得る唯一無二の存在。

4歳の女の子と1歳の男の子の子育てをしながらデビュー20周年のアニバーサリーイヤーを迎え、ますます精力的に活動中。

人も歴史も食も、
誇りに思っている魅力が
鹿児島にはたくさんある

